

沖縄県民を侮辱し憲法9条踏みにじるメア前日本部長発言に抗議する 暴言の根拠・意図の究明と普天間米軍基地の無条件撤去を求める

昨年12月、ケビン・メア米務省日本部長（当時）が、ワシントンで行った米国大学生らに対する講義での発言に沖縄県民はじめ全国各地で怒りの声が上がっている。

メア氏は「沖縄の人は日本政府に対するごまかしとゆすりの名人だ」「沖縄の人は怠惰でゴーヤも栽培できない」「沖縄は離婚率、出生率、特に婚外子の出生率が多い。アルコール度の高い酒を飲む文化があり、飲酒運転率が高い」などと発言。普天間基地については「沖縄の人はいつも普天間飛行場は世界で最も危険な基地だと言うが、彼らは、それが本当でないと知っている。福岡空港や伊丹空港だって同じように危険だ」。また普天間基地移設問題に関しては、「日本政府は沖縄の知事に対して『もしお金が欲しいならサインしろ』と言う必要がある」などと述べた。また、基地が市街地にあることについても「基地はもともと水田地帯にあったが、沖縄が米国の施設を囲むように都市化と人口増を許したので、今は市街地にある」などと学生に説明した。

メア氏の一連の発言は、平和で基地のない県をめざす沖縄県民を侮辱するとともに、戦後、米軍が「銃剣とブルドーザー」で県民の土地を不法に強奪して基地を築き、日本の米軍基地の75%を沖縄におしつけてきた歴史をゆがめるものであり、断じて許すことはできない。しかもこれらの発言は一個人の放言ですまされるようなものではなく、沖縄などに基地を置いて日本に居座り続ける米国の「占領者意識」に裏打ちされたものであるという点に重大な問題がある。

またメア氏は「もし日本が改憲するなら、日本は（在日）米軍を必要としなくなり、米国にとってはよくない」と憲法9条で規定されている平和主義をふみにじり、米軍基地を今後も存続させるべきだという趣旨の発言もしている。

メア氏は日本部長の職を更迭され、駐日大使が沖縄県知事に謝罪をしたが、このようなことで許される問題ではない。大阪府歯科保険医協会は国民の命と健康を守るために、憲法25条を守ると同時に、9条改定にも反対する取り組みを展開してきた。我われは米国が公式に沖縄と日本政府に文書で謝罪するとともに、メア氏の暴言の根拠や意図を徹底究明することを強く求めるものである。

同時に、このような人物が普天間基地移設問題を担当していたことにも強い怒りを感じるものであり、改めて普天間基地の無条件撤去を要求する。

2011年3月12日